

平成26年度 西原高等学校学校評価

沖縄県立西原高等学校

1. 学校の教育目標

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 自主自立の精神に富み、明朗で個性豊かな人間の育成 | (2) 生命尊重の精神に徹し、感性豊かな人間の育成 |
| (3) 知性を磨き、視野を広げ、国際感覚豊かな人間の育成 | (4) 確かな判断力を持ち、自らの行動に責任を持つ人間の育成 |

2. 本年度の具体的目標

- (1) 学年会を主体とした学習指導、進路指導、生活指導体制を確立する。
- (2) 部活動と学習指導、進路指導を一体化し、文武両道で心身ともにバランスのとれた生徒を育成する。
- (3) キャリア教育を充実し、望ましい勤労観、職業観を身に着けた自立した生徒を育てる。
- (4) 生徒の実態を踏まえ「わかる授業」「ていねいな授業」を実践し、単位取得指導を強化する。
- (5) 予習・授業・復習の学習サイクルを確立した自発的な学びの習慣化を図る。
- (6) 学習環境の整備を進め、全生徒・職員で校内美化に努め、環境教育を実践する。
- (7) 保護者との連携を密にし、全職員で規範意識の醸成、規律指導の徹底を図る。
- (8) 創立40周年に向けた計画を立てるとともに、昨年より継続している取組みを展開させる。
- (9) 生徒にとって魅力ある学校作りを図るための企画及び施策を実施する

3. 目標に対する取組課題

- (1) 全体として
 - ①入学定員確保の取組 ②卒業時の進路実現 ③部保護者会、PTAの活性化 ④多忙化、多忙感の解消 ⑤校納金未納者への対応
- (2) 教科指導（学力の定着）
 - ①授業を大切にす ②家庭学習の習慣形成のための工夫
- (3) 生徒指導（基本的生活習慣の確立）
 - ①規範意識を育み規律ある学校生活を確立する ②担任、生徒指導、教育相談、教頭、校長が連携しねばり強く指導する ③保護者と連携した指導の充実を図る
- (4) 進路指導（将来の自己実現を図る）
 - ①個人面接の徹底 ②国公立のAO、推薦等の活用 ③小論文指導の充実・諸講座の奨励・模試の有効活用 ④情報の共有と発信
 - ④ビジネスマナー講座の各学年での実施 ⑤キャリア教育の実践に取り組む
- (5) 生徒会・部活動（豊かな人間性の育成）
 - ①学校行事を通して学校や学級への帰属意識を高める ②入部率を高め高校生活を一層充実させる ③学校行事や部活動を通して達成感、充実感、感動を与える

評価 **A：達成できた** **B：ほぼ達成できた** **C：あまり達成できなかった** **D：達成できなかった**

評価項目	具体的目標	具体的方針	自己評価	平成26年度の成果等	平成26年度の課題と平成27年度への改善点等	学校関係者評価	学校関係者（保護者・学校評議員）からの意見
			A B C D			A B C D	
教育目標	職員の協働体制の確立	①教育目標達成に向けて教育課題は全職員に共通認識を図る。 ②生徒・保護者の要望を踏まえた教育目標を作成する。	B	(成果) ・経営方針に対しスタッフ会、運営委員会を中心に共通認識が図れた。 ・学年会、各部との連携が図れた。	・校長の経営方針及び具体的取り組みに対する更なる共働意識の醸成 ・課題解決に向けた活動の継続化(報・連・相の徹底を図る)	B A:27.2% B:61.7% C: 9.7% D: 1.4%	・卒業生の進学実績が上がっていて職員一丸となって取り組んでいる姿がみられる。 ・生徒個々の可能性の実現・伸長に努めてもらいたい。

教育計画	多様化した進路等に応じた教育課程の実施・改善	①教育目標を達成するための全体計画を工夫する。 ②教育目標の具現化に向けて校務分掌の経営計画を作成する。 ③年間授業計画の完全実施における授業時数確保に努める。	B	(成果) ・教育目標を元に各学年会、各コースの年間計画を作成した。 ・生徒の実態把握と合わせ、教育課程の改善に務めた。	・内規整備(単位履修生対応、派遣規定等、現状との整合性を確認し、対応を図る) ・教育課程の整備 ・教育目標を踏まえた各部・各コース年間計画の作成 ・時数確保と教科書を終える工夫を図る	B A:30.2% B:60.7% C: 8.6% D: 0.5%	・生徒の実態の把握と実態に合わせた教育課程・指導計画について改善・充実に努めてほしい。
------	------------------------	--	---	---	--	---	---

評価項目	具体的目標	具体的方針	自己評価	平成26年度の成果等	平成26年度の課題と平成27年度への改善点等	学校関係者評価	学校関係者(保護者・学校評議員)からの意見
			A B C D			A B C D	
各教科指導 各科目指導	授業を中心とした教育活動の展開	①シラバス・年間指導計画を授業に活かす。 ②「わかる授業」の実践に努める。 ③課題等により家庭学習の定着化に努める。	B	(成果) ・GU/ト活用により予習復習の定着がみられた	・更なるGU/ト活用方法の探求(家庭学習の定着、学力の底上げ)及び、確かな学力の育成。 ・単位未修得者への対応策の構築 ・授業の工夫改善(「分かる授業」の展開・教育機器の活用等) ・生徒の実態把握と授業の改善及び教材の研究	B A:25.8% B:54.2% C:18.6% D: 1.4%	・補習など行っていただき感謝します。 ・習熟度別の授業など生徒の実態に応じた授業の工夫も必要ではないか。
総合的な学習の時間	地域理解と進路実現を図る。	①自己のあり方、生き方を考えさせ、希望進路の実現を目指す。 ②日頃の教育活動及び各種講演等を通してキャリア教育の充実と進路目標も明確化、地域理解に努める。	B	(成果) ・インターシップは生徒の意識改革に役立った。 ・各種講演会を実施できた。	・キャリア教育の3年間を見据えた継続的、系統立てた取組の実施。 ・二者・三者面談時間の充実	B A:32.9% B:51.2% C:15.1% D: 0.8%	・進路の早期決定につながる取り組みを進めてほしい。 ・諸講演を実施し、考える機会を与えてくれてありがとうございます。
特別活動	生徒の自主活動の推進を図る。	①生徒会の各種委員会の活性化させる。 ②ホームルーム長会を通して、各クラスの活動を充実させる。	B	(成果) ・生徒会が活性化し、H Rと連携して各行事を盛り上げた。	・各種委員会とクラスとの連携を高める ・自主的・主体的な行事の企画・運営を図る。 ・部活加入率70%以上 ・各種委員会の業務・組織等の再検討	B A:32.6% B:54.5% C:12.4% D: 0.5%	・指導方法の確認・生徒の把握に努めてほしい。 ・生徒の様子・活躍等、中学校側への宣伝をすべきだと思います。

生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。	①服装容儀、勤怠指導を徹底する。 ②段階的指導により、生徒の自覚を促す。	B	(成果) ・生徒指導部の丁寧な指導で生徒がとても落ち着いている。 ・学年会と連携し、統一した指導ができた。 ・周囲に迷惑のかかる行為を看過しない方針は良かった。 ・保護者と連携して問題解決に努めた。	・問題の内容が複雑化・深刻化しており、内規等の整備が急務。 ・地域との連携による情報収集と家庭との連携が必要。 ・職員共通理解の下の統一した指導が必要。	B A:44.2% B:45.6% C: 9.4% D: 0.8%	・交通安全指導の徹底。 ・校内に挨拶があふれ、爽やかに落ち着いた感を受けます。 ・熱心な指導有難うございます ・学校外での制服の乱れ。 ・日々の遅刻・欠課の指導の充実をしてほしい ・生徒の実態把握とそれに基づいた指導ができています。
------	-----------------	---	---	---	--	---	---

評価項目	具体的目標	具体的方針	自己評価	平成26年度の成果等	平成26年度の課題と平成27年度への改善点等	学校関係者評価	学校関係者（保護者・学校評議員）からの意見
			A B C D			A B C D	
進路指導	進路を主体的に選択決定することができる能力・態度の育成を図る	①進路指導を段階的・系統的に行う。 ②AO入試・推薦入試の取組を強化する。 ③講座・模試を充実させる。	B	(成果) ・奨学金及び進路説明会等実施できた。 ・全職員体制で小論文・面接指導あたりAO・推薦に対する対策が図れた。 ・小論文研修会参加し、生徒に還元できた。 ・課外講座、夏期講座を実施した。	・進路決定に保護者が積極的に関わる機会を増やす(進路事項啓蒙活動の充実が必要) ・進路決定後指導の強化 ・GU/トを活用した家庭学習の定着、学力の底上げの工夫 ・一般入試に対応できる確かな学力の育成	B A:40.3% B:48.9% C:10.0% D: 0.8%	・伸び悩んでいる生徒(中間層)の個別指導も必要だと思います。 ・諸講演会を通して勉強する機会が持ててよかった。 ・日々の取り組みは素晴らしいと思います(進学者の実績が上がっていて素晴らしい)
健康・安全指導	生徒の健康および安全教育の充実を図る。	①保健室機能・健康相談活動の充実に努める ②交通安全講話の実施と運転免許保持者への分な指導を行う。	B	(成果) ・生命にかかわる講演会(イベント、救命救急法)等を実施した。 ・二輪車等生徒の指導を強化した。 ・食育モデル校として生徒の実態調査を実施した。	・生命に関する教育を学校教育全体で取り組む体勢を図る ・生徒の生活指導(食育、深夜徘徊、交通安全指導)の徹底を図る。 ・事件・事故における情報の報連想(共有化)の徹底を図る	B A:35.0% B:56.2% C: 7.4% D: 1.4%	・問題が多様化して対応が難しいと思いますがよろしく願います。 ・安全管理と事故予防のために取り組んでほしい。

研究・研修	教育課題の解決を図るため、職員の指導力の向上を図る。	①学校課題に即した校内研修を実施する ②授業研究など自己研修に努める。 ③研究・研修したことを日々の教育活動に活用する。	B	(成果) ・服務研修を発足職員会後に実施。機会あるごとにコンプライアンスリーダーより服務徹底の呼び掛けを実施(不祥事ゼロ) ・免許更新等に係る研修を確実に行った ・小論文研修会に多くの職員が参加し生徒の指導に役立てた	・コンプライアンスリーダーの活用 ・不祥事ゼロの継続(服務規律徹底) ・免許更新等に係る研修を確実に行った ・免許更新等必要な研修の受講を行う ・自己研修機会への積極的な参加を行っていく ・組織的・継続的・系統的な取組みの実施	B A:26.4% B:60.1% C:13.0% D: 0.5%	・進路実績の向上などから先生方の取り組みの工夫が伺える。継続して研修等に励んでいただきたい。
家庭・地域社会との連携	保護者や地域と連携を密にし、信頼に応える学校づくりに努める。	①各部・学年PTA活動を充実させる。 ②学校ホームページの充実により保護者、地域へ情報を提供する。 ③PTAメールを活用し保護者との連携を図る。	B	(成果) ・PTA役員会の定期開催が出来た ・周年事業をPTA・同窓会と連携して実施できた ・学校ホームページの更新機会を増やした ・メール登録者が増加、学校の情報伝達手段として有効活用ができた	・次期周年事業への継続的な取組み。 ・同窓会と連携。 ・情報を随時学校HPで提供していく ・PTAメールの充実 ・PTA総会の活性化	B A:36.2% B:47.9% C:13.9% D: 2.0%	・メールなどの情報は学校の様子がわかりやすく助かっています ・三者面談等の機会をもっと増やしてもらいたい ・細かな所まで情報を頂き助かっています。 ・PTA役員との連携はできている。 ・小・中学校への宣伝をもっと行っていただきたい。